

Nougyou Nounon いしのまきNN通信



トヤケ森から望む石巻管内の風景

「いしのまきNN通信」は、石巻地域の農業農村整備事業に関連する活動を広くお知らせすることを目的に、年3回程度発行しています。掲載希望の情報などがありましたら農村振興班までご一報ください。今後ともよろしく願います。

東松島市宮戸6分区で桃の収穫・初出荷



第41号の目次:

東松島市宮戸6分区 桃の収穫・初出荷	1
石巻釜谷太陽光発電所通電式 鳥インフルエンザ埋却演習	2
石巻桜坂高校職業体験受入れ マラウイ国からの研修生受入れ 第41回土地改良大会宮城大会 現地視察受入れ	3
田んぼの学校2018 石巻市長面浦 ボランティアイベント	4

奥松島地区では、東日本大震災からの復旧・復興に向け「奥松島地域営農再開実証プロジェクト」を進めており、ほ場整備を行った水田の一部を転作果樹園として活用しています。平成28年3月に宮戸6分区に植えた桃が、この夏、本格的な実りを迎え、地元の生産組合は念願となる初出荷を迎えました。生産を行っている奥松島果樹生産組合の尾形善久組合長は、「去年は着果した果実の7割以上が獣害を受けたが、今年は獣害対策の効果もあって多くの実りがあった。生育管理を頑張ってきた甲斐があった。」と収穫の喜びを語りました。

着果のあった約9,000個のうち、約6,000個を市場出荷や現地直売で地域内外へ売り出しました。8月中旬に開かれた直売会では、販売開始前から桃を買い求める人の列ができるなど大盛況となりました。実った桃は、15度～16度の高い糖度を示し、購入した人々から「甘みがふんだんでおいしい。」と好評でした。

今後は、樹木の生長による収量の増加が見込まれています。また、将来的には収穫体験や花見などを行い、奥松島地域の新たな観光スポットとして発展していくことが期待されています。



◀ 甘くみずみずしい
桃の果実がなりました

▶ 尾形組合長から
JAの市場担当者に
桃を手渡しました



石巻市釜谷太陽光発電所 通電式が行われました (農村地域復興再生基盤総合整備事業 石巻第2地区)

10月1日、石巻市釜谷に整備された太陽光発電所で発電が始まり、同日、発電所の敷地内で通電式が開催されました。東部管内で県が整備した施設は、平成29年4月に発電を開始した東松島市の太陽光発電所に続き、2か所目となります。

式には、県、市、関係土地改良区、工事関係者など約20人が出席しました。当部の佐々木久則部長は、「この施設が地元農家の営農の一助となることを期待する。」と祝意を表し、石巻市蛇田土地改良区の千葉利一理事長は、「関係する他の土地改良区と協力しながら、当施設を最大限に活用し、農家負担軽減に寄与したい。」とあいさつを述べました。



▲農業農村整備部による概要説明



▲通電式の様子
(佐々木部長、千葉理事長)



▲太陽光パネル

東部管内における農村地域復興再生基盤総合整備事業の取組

石巻圏内の一部地域では、東日本大震災で生じた地盤沈下により、地域の農業水利施設の維持管理費が増加し、それを支出する地元農家の負担もより重くなっています。そこで県は、太陽光発電所を整備し、その売電収益を農業水利施設の維持管理費に充てることで、農家の負担軽減をはかります。

鳥インフルエンザ発生時に備えた 石巻圏域初の本格的な埋却演習を行いました

県は11月9日、東松島市川下で、高病原性及び低病原性鳥インフルエンザ発生時に備えた演習を実施し県、建設業協会、石巻市など関係者約110名が参加しました。発生時の埋却作業を想定した今回の演習では、関係者が防護服を着用して演習に臨み、また重機や消毒用石灰を使用する本格的なものとなりました。

当日は風雨の中、汚染物(鳥の死体等)に見立てた袋を掘削箇所投入する一連の作業を実演しました。また、参加者は、作業中の留意事項や防護服の着脱など必要な措置を学びました。

県建設業協会石巻支部の若生保彦支部長は、「悪天候だったが、様々な状況での発生に迅速に対応する上で今回の演習は意義があった。」と話しました。また、当事務所の小林徳光所長は、あいさつの中で、「処分は、現場・気候条件に関わらず限られた時間内に行い、病気のまん延を防止しなければならない。建設業協会の皆様の協力をお願いします。」と、演習を共催した意義を強調しました。



▲防護服着脱方法の説明



▲埋却演習の様子

石巻市立桜坂高校 さくらプロジェクト(職業体験)受入れ

7月18日～19日、石巻市立桜坂高校の生徒4名が、東部地方振興事務所に職場見学を訪れました。その中で、農業農村整備部は、19日に工事監督研修を実施しました。

生徒たちは、北上地区十三浜工区で、排水路に使用するコンクリート製品の計測やドローンによる工事現場の確認を行いました。専門的な分野の研修でしたが、生徒たちは職員の説明をよく理解しながら取り組んでいました。

この職業体験を通して、生徒たちは、農業農村整備事業が地域社会に果たす役割を学んだようです。



▲コンクリート水路の計測を行う高校生

第3期草の根技術協力事業 マラウイ共和国からの研修生受入れ

県は、平成29年度から「第3期草の根技術協力事業」を展開し、アフリカ大陸南東部に位置するマラウイ共和国へ技術的支援を行っています。平成30年度は第3期事業の中間年にあたり、7月17日から8月3日にかけて、研修生4名が来県しました。7月20日には、研修生が現地視察のために石巻市を訪れました。

視察では、国営かんがい排水事業で整備した後谷地排水機場と現在建設を進めている鶴家排水機場、東日本大震災後に設立された「株式会社宮城リスタ大川」を見学しました。研修生のパトリック・チョコティさんは、「農業水利技術について多くの発見があった。また、復興に尽力する地元農家の姿が印象的。」と話していました。



▲(株)宮城リスタ大川の菊栽培ハウスを見学する研修生

第41回全国土地改良大会宮城大会 事業視察受入れ

10月16日～18日、第41回全国土地改良大会が開催されました。この大会は、開催地を移しながら毎年開かれており、第41回大会は宮城県を会場としました。県は大会開催の後援を行っており、当部では、17日と18日に、農山漁村地域復興基盤総合整備事業の実施地区（奥松島地区、大川地区）で事業視察を受け入れました。

奥松島地区では、17日、津波被災県や大規模地震の発生が危惧されている県などから444名が現地に来訪し、東松島市の事業説明に熱心に耳を傾けていました。視察者からは、市や当事務所へ多くの質問が寄せられました。

大川地区では、17日・18日の2日間で385名の視察者が現地に訪れ、説明を熱心に聞き入っていたほか、活発に質問がありました。当事務所から事業説明を行ったほか、株式会社宮城リスタ大川と北上川沿岸土地改良区も同席し、視察者からの質問に対応しました。

農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会するこの機会に、全国から多くの支援を受け復興した石巻市、東松島市の姿を、農業者や土地改良関係者などへ広く発信することができました。



▲東松島市奥松島地区の事業視察
(平成30年10月17日)



▲石巻市大川地区の事業視察
(平成30年10月18日)

田んぼの学校2018(8月～10月実施分)

東部管内では、地元農家が多面的機能支払交付金を活用し、地域の小学生に農業や農村を学んでもらう場を設けています。その中で、石巻市河南地区の広淵ふるさと保全会が、8月22日に生きもの調査を、10月17日に稲刈りを行いました。また、須江ふるさと保全会が8月31日に農業水利施設の見学を、北村ふるさと保全会が9月13日に生きもの調査を実施しました。

子どもたちにとって、ポンプ場の大きさに驚いたり、田んぼで魚や水生昆虫を捕まえたり、初めての稲刈り作業に収穫の達成感を感じたりと、多くの発見が詰まった貴重な体験となったようです。



▲須江小学校 追入排水機場の見学
(平成30年8月31日)



▲北村小学校 生きもの調査
(平成30年9月13日)



▲広淵小学校 稲刈り体験
(平成30年10月17日)

石巻市長面浦でボランティアイベントを実施しました

10月13日、石巻市長面浦で、地元で漁業を営む女性たちが、地域外住民と交流するボランティアイベントを開催しました。これは、長面浦の復興状況や魅力を知ってもらおうと、農山村集落体制づくり支援事業を活用して企画したもので、一般参加者・関係者合わせて約50名が参加しました。

当日は、大川小学校跡地やカキ養殖棚の見学、浜周辺の草取りやゴミ拾いを行いました。参加者は長面浦の自然や地元の方との交流を楽しみ、また、東日本大震災の傷跡に触れて復旧・復興への思いを深めたようです。活動の終わりに、地元でカキ漁を営む濱畑千代子さんは、「ボランティアに来ていただき大変ありがたい。また長面浦に来て欲しい。」と参加者に感謝を述べました。



▲大川小学校跡地見学



▲浜辺でのゴミ拾い



▲記念写真

宮城県東部地方振興事務所 農業農村整備部 (編集：農村振興班)

〒986-0850 石巻市あゆみ野五丁目7番地
Tel 0225(95)1411(内)2631
Fax 0225(96)4880
E-mail et-ss-nos@pref.miyagi.lg.jp
URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-ns/>

一日も早い災害復旧と
地域復興をめざして

